

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 1 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370165

研究課題名(和文) ノントキシック版画技法の普及に向けた調査研究

研究課題名(英文) Survey Research on the Spread of Nontoxic Printmaking Techniques

研究代表者

湊 七雄 (MINATO, Shichio)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・准教授

研究者番号：80436849

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ノントキシック版画技法研究の先進国(主にアメリカ・ベルギー)を対象に、技法研究や普及システムの特徴を、その実施方法や内容等から明らかにした。また、当該技法の特性を広く社会に示すために、作品画像データを収集し系統だてて分類した。
なお、研究協力者らとともに、主に指導者や版画家らの基本的な支援体制について研究し、ワークショップを開発しその内容を書籍とウェブ上で公表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was two-fold: first to conduct an international survey to investigate activities surrounding the research and spread of nontoxic printmaking techniques and clarify the situation and challenges in each country; second, to develop a system to instruct users about the techniques and propagate them around the world.
Specifically, I conducted a factual investigation concerning the introduction and dissemination of nontoxic printmaking techniques around the world in order to systematize our knowledge of current conditions. At the same time, together with my research colleagues, gather resources and conducted a survey about the presentation of nontoxic printmaking techniques and assembled basic data about demonstrating their characteristics and potential to society. Lastly, we developed a basic system of support and a broadly applicable instruction method for teachers who wish to introduce these techniques.

研究分野：美術

キーワード：ノントキシック版画 非毒性版画技法 ワークショップ開発 技法研究

1. 研究開始当初の背景

欧米を中心に美術表現分野における画材のノントキシック化(非毒性化)が急速に進められている。版画分野ではこれまでに、代表的な四版種(凸版、凹版、平版、孔版)全てのノントキシック化が実現している。身体や環境に有害な材料・素材の使用を控えた「ノントキシック版画技法」には、芸術的表現の面でも伝統版画技法の代替に留まらない「次世代型版画技法」としての発展性がある。

しかし、わが国はもとより、この分野をリードする欧米諸国においても、技法の研究開発に終始した側面があり、その普及方法については十分な検討がなされてこなかった。そのため普及率は低く、今なお多くの国で安全な制作環境が整っていない。一方で、毒性の強い画材への規制や制作環境の安全規制の厳格化は近年急速に進み、それらの規制に対応出来ず版画工房を閉鎖する事例も報告されるなど、版画人口減少や版画芸術停滞への懸念が生じていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ノントキシック版画技法研究の先進国(アメリカ・ベルギー・デンマーク)を対象に、技法研究や普及システムの特徴を、その実施方法や内容等から明らかにする。また、当該技法の特性を広く社会に示すために、作品画像データを体系的に収集する他、本技法普及に向けた講演会・ワークショップ・企画展を開催し、わが国における新たな技法研究開発・普及システムの構築に活用する。

3. 研究の方法

普及システムの現況調査・分析:

当該分野をリードする国内外の主要研究機関と個人アトリエの訪問調査を行い、ノントキシック技法を取り巻く現状と課題を調査分析した。

技法の体系化:

関連資料を収集し、ノントキシック技法を体系的にとりまとめた。具体的には、ノントキシック版画技法を用いて制作された作品(主にノントキシック化が困難とされてきた銅版画とリトグラフ)の画像データを収集・分析することで、この技法の特性を明らかにした。

普及システムの検証:

海外トップ研究者を招いた講演会・ワークショップ・企画展を開催し、能動的な研究成果のフィードバックの有用性について検証した。

4. 研究成果

普及システムの現況調査・分析について:

平成 25 年度(1 年目) アメリカの普及シ

ステムについて、それぞれ異なる州の教育研究機関に所属する 5 名の研究者に聞き取り調査を実施した。また、併せてサンフランシスコの 5 つの芸術教育機関と民間アトリエを視察調査した。

当該技法誕生 30 年の当地でも完全ノントキシック化が実現している施設は限られているが、環境や身体への影響についての議論は広く行われており、各地で部分的導入については積極的に取り組む姿勢が確認できた。

ノントキシック版画のパイオニアである故・キース・ハワード(元ロチェスター工科大学芸術学部教授)を始めとする、当該技法の黎明期を支えた第一世代の教育者らは、アトリエの有機溶剤全てをまず処分することを大前提としていた。しかし、こうしたアプローチが広く受け入れられず、逆に伝統技法支持する層との対立を生むことになった。

また、収集資料分析の結果、当該技法の核として位置づけられてきたアクリル・グランド(防蝕材)に対する美術表現上の不満と、伝統技法を後世に引き継ぐべきであるという教育的配慮、そして国際的な研究者ネットワークの不備が普及の妨げとなっていることが明らかになった。

平成 26 年度(2 年目) ベルギーを訪問し、現況聞き取り調査を進めた。ベルギーは後発でありながら、アントワープ美術アカデミーのマルニックス・エヴェラールト教授らのグループが積極的に技法研究を行い、ワークショップにてそれらの研究成果を広める手法が功を奏し、多くの美術大学や公的アトリエでのノントキシック化に成功している。

技法の体系化について:

平成 25 年度(1 年目) アメリカ訪問し、関連資料・作品画像を収集しアーカイブした。

平成 26 年度(2 年目) 作品画像(約 300 点)を撮影し、アーカイブした。

研究協力者より提供を受けた資料の数が膨大であったため、第一ステップとして、銅版木の根幹をなす 3 つの技法(ソフトグランド、ハードグランド、アクアチント)について集中的に画像を収集し、系統だった分類を試みた。しかし、従来技法で制作された作品との顕著な違いをアーカイブした画像のみで確認するのは困難な状態である。

なお、当初計画にあげたリトグラフについては分析に至っていない。

普及システムの構築・検証について:

平成 27 年度(3 年目) ベルギー・アントワープ美術アカデミー教授マルニックス・エヴェラールト氏を日本に招聘し、講演会、ワークショップ研究開発、成果発表展覧会を行った。

ノントキシック版画技法の普及にあたり、大きな成果を生んだエヴェラールト教授グループの手法を発展させる形で、2 日間で銅版木の主たる 3 つの技法を指導するワークショップを開発し、国内 2 カ所(西宮市、つく

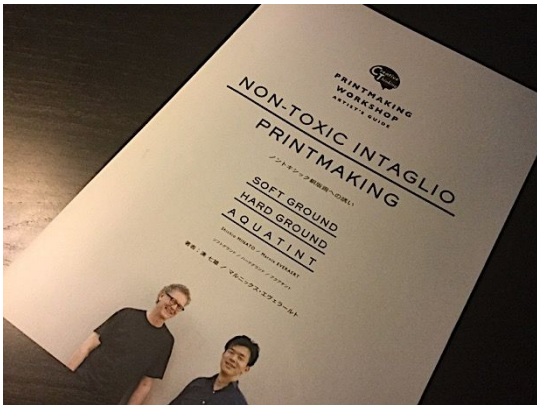
ば市)でワークショップを実施した。

参加者(計40名)の属性は現役学生、版画指導者、版画家、社会人版画愛好家などであった。参加理由としては、やはり制作環境の改善が最も多かった。次に従来の制作スタイルで健康を害した経験を踏まえ、より身体にやさしい技法を学びたいとの理由だった。中には妊娠中の若い女性もあり、出産後も版画制作を続けたいとのことだった。

ワークショップ研究開発の成果をまとめ、指導者・版画家向けの技法書『Non-Toxic Intaglio Printmaking ノントキシック銅版画への誘い』(A4、フルカラー、全28ページ)を共同執筆し出版した。

ノントキシック銅版画技法をステップ・バイ・ステップ形式で習得できるよう工夫している。ささやかな冊子ではあるが、ノントキシック版画に関する書籍や関連ウェブサイトの殆どが英語となっており、現状日本語での情報は極めて少ないことから、始めの第一歩を踏み出したいと考える方々の一助となればと願っている。

版画に限らず、わが国の学校教育現場には制作環境の安全対策に大きな遅れが認められるが、こうした課題について、オープンに意見交換できる場は限られている。講演会・ワークショップ・企画展等の直接的な成果発表の機会設定と、研究者・アーティストの人的ネットワークの活性化は必須であると肌で感じた。ノントキシック版画技法の有用性を広く紹介し、普及させることで、より安全な制作環境の整備が実現し、中・長期的には版画人口の増加、ひいては版画芸術の振興が期待できると考えている。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

湊七雄、ノントキシック版画技法の普及に向けたワークショップの開発、版画学会学会誌第45号、査読有、31-40頁、2016

湊七雄、牧野浩之、小学校図画工作科における体系的な版画教材の研究開発: 福井大学・福井県教育研究所の取組、福井大学初等教育研究1、査読有、89-96頁、2016

湊七雄、西畑春佳「地域社会密着型アートマネジメント人材育成プログラムの研究開発」、福井大学教育地域科学部紀要、査読有、2014

〔雑誌論文(翻訳)〕(計 1 件)

マルニックス・エヴェラルト、湊七雄(翻訳) もうそこまで来ている、版画の未来、版画学会学会誌第45号、査読有、25-30頁、2016

〔学会発表〕(計 2 件)

湊七雄、ノントキシック版画技法の普及に向けたワークショップの開発、町田市立国際版画美術館講堂、2016/12/03

湊七雄、美術教材と指導法の開発 ノントキシック版画技法を応用した教材と教師向けワークショップ、第3回福井CSTシンポジウム-科学を伝える、福井大学文京キャンパス、2014/11/29

〔ワークショップ〕(計 4件)

湊七雄、Printmaking Workshop Collagraph and Carborundum、гент美術アカデミー(ベルギー)、2016/05/10
マルニックス・エヴェラールト、湊七雄、鶴巻貴子、ノントキシック版画技法ワークショップ in 筑波大学、筑波大学、2015/08/08
マルニックス・エヴェラールト、湊七雄、鶴巻貴子、大手仁志、ノントキシック版画技法ワークショップ in 西宮、アトリエコントロールポワン jp(西宮市)、2015/07/25
湊七雄、ノントキシック版画技法を応用した教材と教師向けワークショップ、第3回 CST シンポジウム-科学を伝える-福井大学、2014/11/29

〔作品発表〕(計 7件)

湊七雄、「有鄰館アートビエンナーレ展」、有鄰館運営委員会・桐生市教委主催、有鄰館(群馬県・桐生市)、2016/10・版画作品2点、ドロイング作品3点を展示
湊七雄、「Private view・湊七雄個展」、Kamer108(ベルギー・гент市)、2016/05・大型版画作品7点、小作品5点を展示
湊七雄、くにたちアートビエンナーレ2015「はんがのみらい展」、宇フォーラム美術館(東京都国立市)、2015/06・版画新作5点を展示
湊七雄、「目覚めのあと。」湊七雄×野中正行展、SHIBUYA PUBLISHING & BOOKSELLERS(東京都渋谷区)、2015/03・版画作品23点、油彩画3点を展示
湊七雄、HANGA 展 / 日本とベルギーの版画の今日、ベルギー・セントニクラス市立美術館、2014/06・「重なる風景」シリーズより、大作品2点、小作品4点を展示
湊七雄、Trait d'Union 21「湊七雄展 | 重なる風景」表参道画廊(東京)、2013/07・「多層刷り」の技法を用いた新作版画作品20点の展示
湊七雄、Overlapped Scenes 重なる風景 湊七雄版画展、E&C ギャラリー(福井)、2013/09・「多層刷り」の技法を用いた新作版画作品30点の展示

〔図書〕(計 3件)

PRINTAMAKING WORKSHOP ARTIST'S GUIDE ノントキシック銅版画への誘い、湊七雄、マルニックス・エヴェラールト、福井大学教育地域科学部、全28頁、2016
WEWANTOSEE 日本・ベルギー国際交流美術展 in 金沢 展覧会カタログ、湊七雄、前野みさと、WEWANTOSEE 実行委員会、全40頁、2016
「子どもたちが様々な表現を試せる 楽しい木版画の技法」(指導者向け DVD)、湊七雄監修、福井県教育研究所編、全5

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.shichiominato.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

湊七雄 (Shichio MINATO)

福井大学・学術研究院 教育・人文社会系

部門(教員養成)・准教授

研究者番号: 80436849

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

マルニックス・エヴェラール(Marnix EVERAERT)

(гент美術アカデミー・教授)